

立命館経済學

第十卷 第五・六号

昭和三十七年二月

内 容

論 説

- マルクス主義経済哲学の成立の必然性……………梯 明 秀 1
- 現代企業の構造と経営者の活動……………植 村 省 三 34
- 経営職能論序説——

研 究

- 近世丹後縮緬機業に於ける飛脚制度について……………足 立 政 男 91
- わが国における割賦販売会計の理論……………桑 原 幹 夫 119

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第十卷・第三号

論説

都府経済の段階と現今の広域
経済圏の問題 淡川 康一

大学と労働者教育 平田 隆夫

日本海運における独占形態 岡庭 博

ヒルファーディングにおける
株価分析 住ノ江 佐一郎

経営分析の新しい概念 田中 米一

わが国最低賃金法について 坂寄 俊雄

十八世紀イギリスの貿易構造 角山 栄

社会統計における統計的規則性の
意義と限界 関 弥三郎

農村人民公社の所有制と発展構造 松野 昭二

——「生産隊を基本とする三級所有制」——
G・ミュルダールの価値判断論 浜崎 正規

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学 第十卷・第四号

論説

銀行資本の本質とその現象 小牧 聖徳

アメリカ独占体の財務構造 中村 萬次

広い意味での経済学について 木原 正雄

——社会主義経済学の生成と発展——

資料

J・ミル『政治経済学綱要』
への批判的評注 細 見 英

——マルクスの最初の経済学研究より——

発行所 立命館大学人文科学研究所